

# 阪神・淡路大震災に係る 災害復興住宅の景観形成指針

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業  
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

## ■景観形成指針について

住宅地づくりは、あくまでも住まい手が主役である。住まい手にとっての景観とは、単なるお化粧のデザインの問題ではなく、快適で豊かな生活空間の発現が、結果として良好な景観を生むのである。

また、景観とは、建築単体の質ではなく、**建築と建築の間に形成される街路や空き地、すなわち「街なみ」、「界わい」**の質の問題として捉えられるべきである。

この景観形成指針は、**住み手一人一人にとっての生活空間の問題から、全体としての環境形成に至るまでの、景観総体としての居住空間の質的向上を図るため、あくまでも住まい手の豊かな生活と良好な街なみづくりを目的として、災害復興住宅の空間形成に関わる基本的な方針を定めたものである。**

## ■目標

### 1. 「生活基盤づくり」

- 一人々が意欲を持って生活を楽しめる居住空間の形成
- ・街に生きる自立した生活、安心・楽しみ・元気・意欲あふれる生活を育む。
  - ・生活の楽しさの表出そのものが復興の象徴であり、街なみの楽しさをつくる。
  - ・楽しい快適なライフスタイルと環境の創出が、住む人々の街への誇りや愛着を生む。その気持ちが、街にやさしく人にやさしいコミュニティを育む。
  - ・高齢者や弱者も、皆と一緒に安心して暮らせ、安全でサステナブル（持続可能）な生活空間を創出する。

### 2. 「環境資産づくり」

- 一良質なストックとしての、住宅環境の骨格の形成
- ・阪神・淡路の環境特性を生かした、住まいの楽しみ方を育てる。
  - ・山から海へ至るおおらかな地形と眺望、六甲山の緑、海、川、山風、海風、朝陽、夕陽、夜景の享受できる生活を大切にする。
  - ・住まい手だけでなく、周辺の人々、街の人々も楽しめるような環境形成を行なう。
  - ・防災に配慮され、高齢者や弱者も安心して住める街づくりに貢献する。

## ■景観形成の6つの基本テーマ

### ① 「快適で豊かな生活空間をつくる」

- ・なによりも、人々が快適で健康に暮らせ、豊かに生きることのできる生活空間づくりをめざす。豊かな生活空間の、街並なみへの表出こそが、良好な住宅地景観形成である。

### ② 「防災性に配慮する」

- ・震災の経験に応え、地震、火事等の災害に強い、安全で安心して暮らすことのできる住宅地づくりをめざす。

### ③ 「周辺環境に配慮し、応答する」

- ・景観とは生活空間の総体であるから、こちらの敷地と隣りの敷地、向かいの敷地、及び街区、さらには街全体といった、周辺環境をいかに見据え、その応答として、公共空間に資する景観をいかに生み出すが大切である。

### ④ 「時間とともに生きる」

（サステナブル〈持続可能〉な空間づくり）

- ・時間を通して一定の秩序を保ちつつ、豊かに成長変化してゆく生活空間づくりをめざす。
- ・だれもが永く住み続けられる、恒久的で耐久性のある、生活空間の骨格をつくる。
- ・日常や四季を通した時間変化による、自然のうつろいを味わい、楽しむことのできる空間づくりをめざす。

### ⑤ 「地域性を引き継ぎ、未来へ生かす」

- ・人と生活が時間とともに蓄積してきた価値観、慣習、文化、さらには地形や気候等の「地域性」の、継承・発展を図る。そして、それらのおおらかな秩序の中にも、各々の空地や建築の個性化を図り、秩序と個性のバランスに配慮する。

### ⑥ 「環境共生に配慮する」

- ・地球環境にやさしい街づくりに配慮する。
- ・太陽、水、風、緑など、自然環境を利用した生活空間づくりを行う。

## ■復興住宅をつくる

### ① 防災に強い

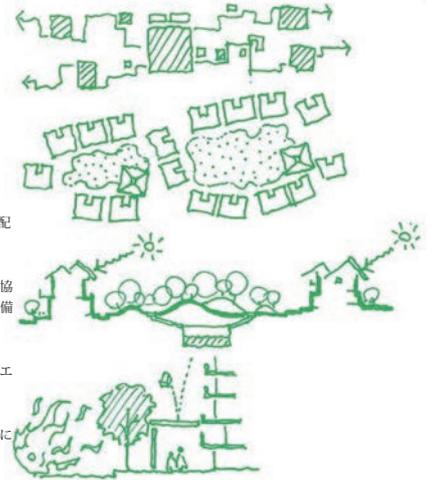
住宅づくり、住宅地づくり

- 地域スケールの防災ネットワークに配慮した整備をおこなう。

- 緑地、広場等のオープンスペースや協同施設を積極的に配し、非常時に備える。

- 水の貯蓄や太陽熱利用などの、自然エネルギーの活用を図る。

- 壁面後退や並木の充実、歩廊化などにより、歩行者空間の安全化を図る。



### ② 被災者の自力生活復興を支える空間づくり

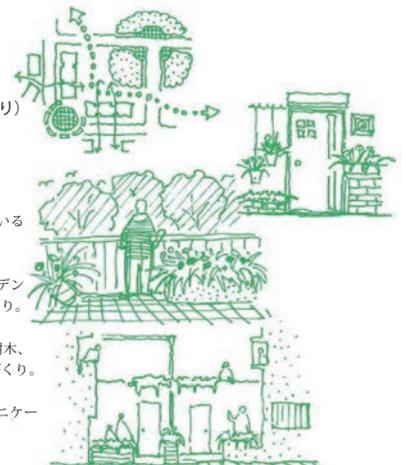
（元気、安心、意欲、活力のある、活気ある街づくり）

- 街と関わり、街の人々と共に生活している実感の持てる空間構造づくり。

- わがまち、わが家意識の持てる、アイデンティティのある住宅づくり、住宅地づくり。

- 心の明るさ、やさしさの助けになる、樹木、草花の絶えない住環境のための仕掛けづくり。

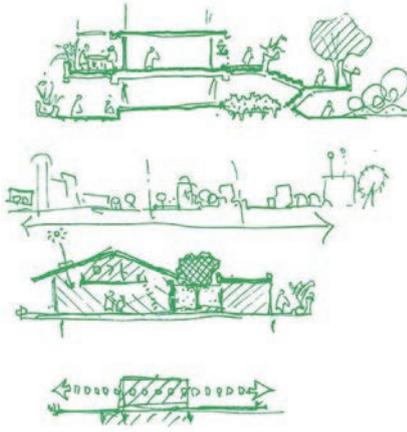
- 顔が合う、生活が触れ合える、コミュニケーションが促される空間形成



トータルな視点での

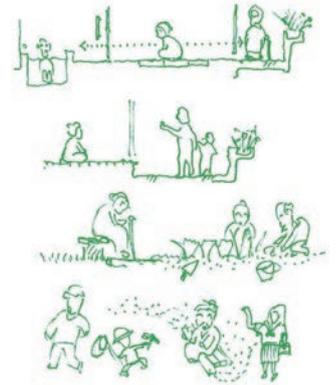
### ③豊かな居住環境づくり

- 住戸専用空間のみならず、廊下や階段、屋外空間などの中間領域を豊かにつくる、豊かなすき間づくりを行なう。
- 街と豊かに関係することにより、街も居住空間であることを再認識する。
- 眺望や借景、コートやロフトなど、住戸内環境を少しでも豊かにする工夫をおこなう。
- 居住者が自分で工夫する余地を残した空間整備を行い、自主的に持続可能な居住環境の維持・拡張を図る。



### ⑤高齢者・弱者に配慮したやさしく、安心して暮らせる住宅地づくりを行う

- 高齢者・弱者が日常生活において、快適な生活が送れるよう、バリアフリーに努める。
- 高齢者・弱者の生活が孤立しないよう、人に触れ合える居住環境づくりや、緊急連絡設備の設置に努める。
- 共用部や外部空間にも、高齢者の憩いや菜園等のスペースや、小さな子供の遊び場等の、生活を楽しくするしつらえを行う。
- 高齢者・弱者だけでなく、若者や、小さな子供のいる家庭等、様々な世代が混ざって住む、楽しさと活気のある生活を実現する。



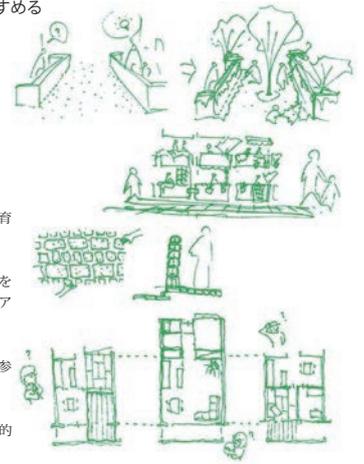
### ④協同空間を育む、空間の仕掛づくり (コミュニティの育成)

- 協同アトリエ、協同ダイニング・リビング、協同ホール等を集会場の延長としてつくる。さらに、街なみとの連続化、シンボル化を図る。
- 屋外空間についても、談話スペース、緑台など、協同生活を促進するしつらえを行う。
- それらの協同空間は、用途やかたちを固定しすぎることなく、多様で自由な利用が誘発、創造できうるものとする。
- 協同空間は居室や建物のみならず、住棟間のすき間や、開かれたコートなど、空地空間づくりとしてとらえる。



### ⑥住民の自主参加の環境形成をすすめる

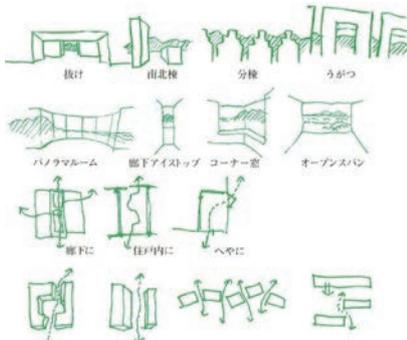
- 土の専用庭や家庭菜園など、住み手の自主参加を育む領域を用意する。
- 住み手の生き生き住む様を、街へ表出する仕掛けを用意する。ープランター、ツタメッシュ、出窓、アルコーブ、ルーフガーデンなど。
- タイル貼りや絵、模様、簡単な施工等、住み手の参加できる部分を用意する。
- 住戸内に、フリースペースとして、住み手の自主的な改変に応え得る空間を用意する。



## ■阪神・淡路らしさをつくる

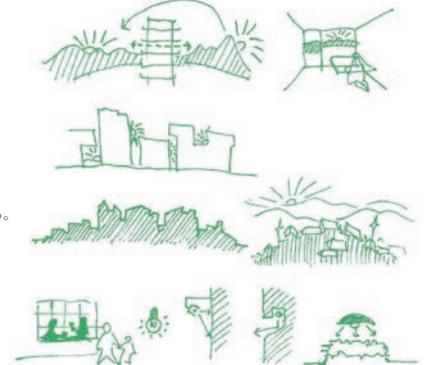
### ①山・海が見え 山風・海風が感じられる街づくり

- 街から山・海が見える。
- 住戸内から山・海が見える。
- 住戸内に山風・海風が通る。
- 敷地内の空地に山風・海風が通る。



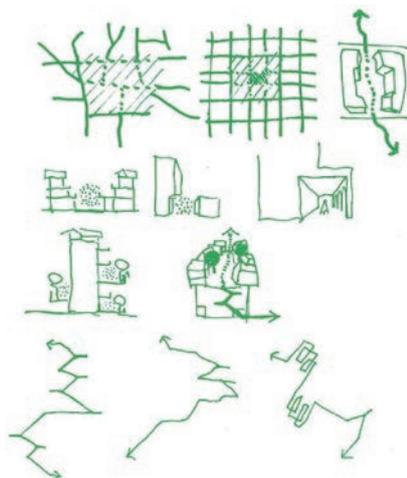
### ③光と暮らす街づくりー朝陽・夕陽と暮らす、美しい夜景をつくる

- 東と西に開いた住戸をつくる。
- 朝陽・夕陽の通る住棟のすき間をつくる。
- 夕景に映えるスカイラインをつくる。
- 住まいに、街にやさしい暖かい光 (間接照明や暖色灯等) に配慮する。



### ②道と暮らす街づくりー坂道と暮らす、道を楽しむ、道でつなぐ

- 街の道を引き継ぐ配置計画。
- 道 (界わり) 空間をつくる住棟デザイン。
- 立体街路をつくる。
- 階段も道としてつくる。



### ④自然と暮らす街づくりー大きな自然 (六甲山・瀬戸内海)、身近な自然 (森、木、公園、並木、生垣、生活の花緑) に付き合う

- 山・海の見え方、感じ方に配慮した空間計画を行う。
- 周辺の緑のボリュームの流れに付き合い、引き継ぐ。
- 近接の樹林・川などは塞がず、後背の敷地からの視線・アクセスを通す。
- 土のままの外構や、植木鉢・花台の置けるバルコニーや廊下などを設ける。

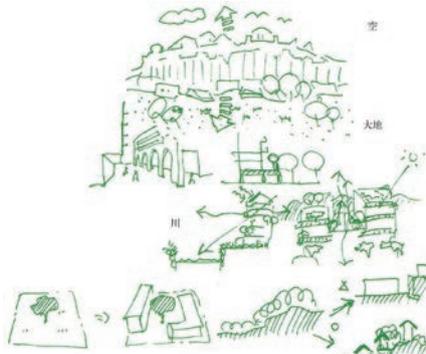


阪神・淡路の  
⑤ 伝統・風俗・歴史を生かす



- 地域の伝統的な産業を生かす。
- 地域に住む人の才能、技術を生かす。
- 国際的に豊かな街づくりを継承する。
- 歴史・文化のかたちを造形言語として生かす。

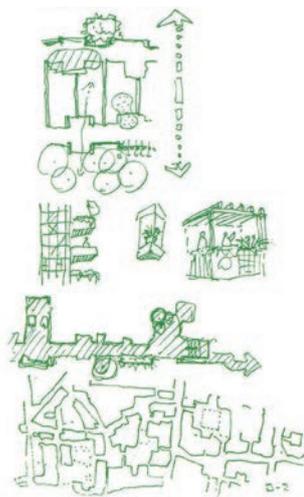
③ 環境に応答した建築をつくる  
・空・大地・道・山・海・光・川・運河・樹木・街・地形……



- 「空」と応答する頂部+「大地」と応答した基層部+中間部=3層構造の構成形成
- 「道」、「街」と応答した住棟形式
- 熱射を遮り、自然風を通し、視界を生かし、立体緑化やソーラー、自然素材の利用など、自然環境を生かす共生できる住宅づくりをめざす。
- 「樹木」、「街」と応答した配置

生活と街をつなぐ  
④ 中間領域を豊かにする

- 私的空間と公的空間の多様な関係性を創出する(抜ける、つながる、垣間見える、視線、風、声、顔…)
- 「生活が街に顔を出す」バルコニーは、住戸個性の表出を図り、手すり素材や形状の選択性と多様性の実現を図る(その他、サンルーム、出窓、ルーバー、プランター…)
- 「生活が街につながる」アルコーブ、共用テラス、各階ホール・廊下は、奥行きと多様性のある領域形成を図り、溜まりや辻、細やかなスペースを創出する。
- 「生活が街をつくる」エントランス広場、パティオ、街角空地、リニアな空地等は、街の空間構造をつくる視点で計画する。

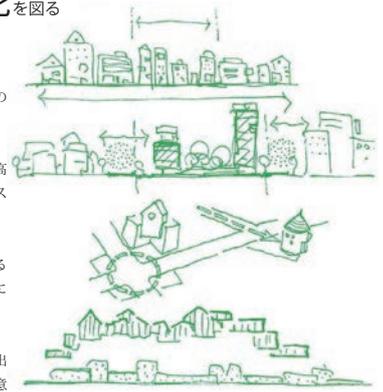


■ 街らしさをつくる

建築の基本ボリュームは、街なみに付き合った、人にやさしいスケールとする。  
巨大なボリュームは

① 分割化・分節化・個性化を図る

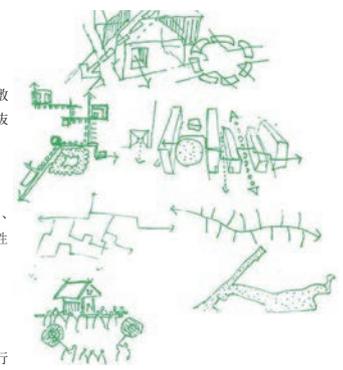
- 住棟のタテに分割し分節化を図り、周辺の、街の建物が並ぶスケールの景観をつくる。
- 隣地が低層の側には低層棟を、中高層側には中高層棟を配する等、街路空間形成の視点で、街のスケールに合った住棟配分を行う。
- 街角や突き当たりなどのランドマークに位置する部分は、街なみに寄与する、親しみがあり印象に残るマスの形態をつくる。
- ベントハウスや最上階住戸の屋根、1階住戸の出屋やルーバー等は、特に街スケールの形成に留意する。



環境構造としての空地空間を

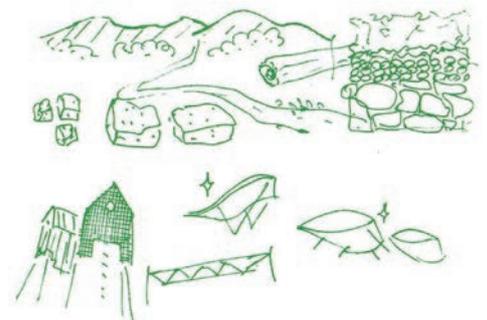
② 地域環境を配慮して創出する

- 建築の配分は、同時に空地(公空間)の配分である。敷地内の容積ボリュームを、街をつくる観点から、どう抜くか、開けるか、どこに集めるかを考える。
- ミチ、ヒロバ、スキマ、ロジ等の空間とそのつながり、アイストップ等の視線とシーン形成等、居住空間を活性化させる空地構造を、豊かにしつらえる。
- 生活・公共施設系のネットワークに留意する。
- 地域の持つ固有の環境構造や、祭り等のコミュニティ行事に学び、これらが生かされる空間形成をめざす。



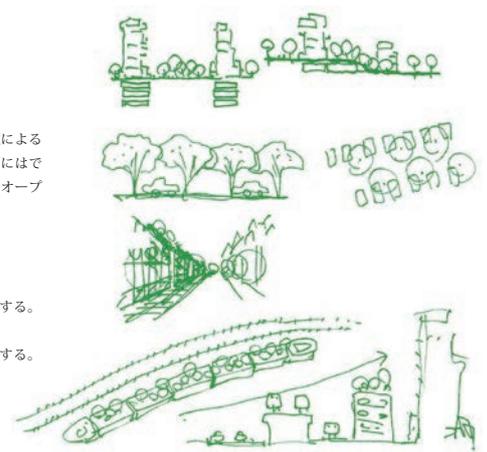
⑤ 街なみをつくる素材を、選択・配分する

- 背景の自然に、街なみに、協調する素材を基調とする=自然、風土、歴史の素材を引き継ぐ。
- 全体のバランスに配慮しながら、背景の自然・街なみに際立たせる素材も一部効果的に用いる=現代的素材、色彩。



⑥ 駐車場も街並み形成に参加する

- 地形の段差利用や地下化、機械による立体化等の工夫により、地表面にはできるだけ緑地や公園、広場等のオープンスペースを創出する
- 緑でおおい、緑地化する。
- ストリート建築として街に参加する。
- インフラ化し、環境構造を形成する。



■地域特性方針

□山側の住居主体地域（山際～阪急電鉄）



①周辺の低層建築のスケールに合わせて、住棟のたて分節化、ヨコ分節化をおこなう。



②街のスケールにあった、細やかな空地空間を形成する。

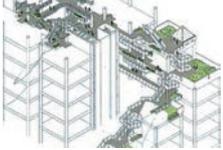


③住棟は、隣接住居や街路からセットバックし、圧迫感を軽減する。



④街的イメージの、つながりのある群造形のスカイラインをつくる。

□中間部の住商工複合市街地・駅前再開発



①段階性、立体的、連続性があり、ヒューマンスケールと多様性をもつ空地空間を、創出する。



②遠景のシンボル性（街的スカイラインの群の造形美）に配慮し、都市居住核としてのイメージ形成を図る。



③都市形成モデルとしての環境構造と建築モデルを創出する。



④広場や街路空間を先導形成するための、建築ボリュームの配分を積極的におこなう。

□一般市街地



①分節化や分節化など、周辺街なみの建物のスケールに合った、住棟ボリュームの創出をおこなう。



②低層建築の街なみに対しては、セットバックと緑化等により、圧迫感を軽減する。



③街の空地空間構造のしくみに応答した、空地空間の配分を考慮する。



④スカイラインや空間形成は、現代的集落として、統一と変化、連続性のあるデザインをおこなう。

□海側の工業・港湾主体地域（阪神電鉄～海岸線）



①山から海からの遠景の景観として、シンボリックな美しいシルエットの群のデザインを行う。



②周辺の大きな散地スケールに呼応し、おおらかな緑地やオープンスペースを創出する。



③周辺建築のもつ現代的・工業的デザインに応答し、頂部のデザインイメージを調和させる。



④工場などからのパフファ空間として、リニアな厚い緑地帯や、緑化駐車場などを配する。

□港湾埋立型ニュータウン



①海から、陸からの、遠景のスカイライン、群のデザインに配慮する。



②住棟スケールの適度な分節化と連続化を図り、界わい性・街らしさの創出を図る。



③港の風景として、夜景・光の風景に配慮する。



④街づくりの先導として、力強くはっきりとした、分かりやすい環境構造を形成する。

□郊外型ニュータウン



①街づくりの計画・意図に、配慮・応答した配置計画をおこなう。



②背景の自然や山なみに映える、応答のあるスカイラインを形成する。



③自然地形の復権、森林緑地の復権を図る。



④既存地形に付き合うことにより、多様な居住環境と、変化に富んだ「場所」を創出する。

□歴史風土特性地域（淡路、魚崎、北野町、歴史的集落…）



①歴史・風土の素材を取り入れる。



②街路空間や空地構成の伝統的な仕組みに留意する。



③立面、スカイラインの調和に配慮する。



④新しい機能・素材と、伝統的な物との共存・発展を図る。

『阪神・淡路大震災に係る災害復興住宅の景観形成指針』

発行：2012年9月

執筆：江川直樹（関西大学 教授）  
星田逸郎（星田逸郎空間都市研究所）

出典：『阪神・淡路大震災に係る災害復興住宅の設計方針』より  
作成：災害復興住宅供給協議会、現代計画研究所

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究（平成23年度～平成27年度）」によって作成された。

関西大学  
先端科学技術推進機構 地域再生センター  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室  
Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)  
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>